

老朽化インフラ対策のためのソーシャルインパクトボンド による資金調達手法に関する提言 ～官民＋市民による持続可能で安心なインフラの維持管理に向けて～

慶應義塾大学 理工学研究科 博士課程
博士課程教育リーディングプログラム オールラウンド型1期生

段 牧

概要

- ▶ 今後20年で建設後50年以上経過するインフラの割合が大幅に増加する
- ▶ 老朽化インフラが抱える財政面の問題に対して**ソーシャルインパクトボンド(SIB)**を用いた資金調達の手法を提案する
- ▶ インフラが持つ本来のハード的要素だけではなく**まちづくり**に貢献するソフト的要素にも着目
- ▶ 社会的価値を創造するインフラ維持管理を実現する

実現すべきビジョン

インフラ老朽化問題に対する無関心・他人任せをなくし
自分たちのまちを自分たちで守っていくことのできる社会の実現

行政

- ▶ SIBの導入により老朽化インフラ問題に対する企業・市民の関心を高め、インフラ維持管理のための財源確保につなげる

民間企業・市民

- ▶ SIBへの投資を行うことで老朽化インフラ問題をジブンゴトとして捉え、自分たちのまちは自分たちで守るという意識を作る

提言の具体的内容

具体的な提言項目

- ① 社会的価値の設定・評価のための機関の設置
- ③ SIB投資家(企業)に対するCertificationの発行
- ② SIB投資家(個人)に対する減税の実施

SIBとは

社会的課題の解決と行政コストの削減を同時に
目指す**社会的投資モデル**

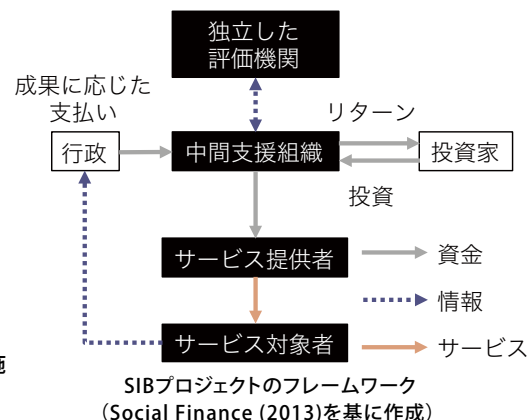
SIBのポイント

- ▶ 民間資金で優れた社会課題解決のための事業を実施
- ▶ 事前に合意した**成果が達成された場合のみ**行政が投資家へ成功報酬を支払う
- ▶ 成功報酬は**社会的成果連動型**

SIBプロジェクトの成功のカギ

- ✓ 投資家の特定
- ✓ 社会的価値(成果)の設定・評価

老朽化インフラの維持管理が生み出す
社会的価値と**受給者**の特定が必要



①考えられる指標

1. 災害リスクの低減
・新技術の導入などによる成果
2. まちのにぎわい増加
・インフラの更新・整備によってもたらされる副次的成果

②想定される投資家

地域住民・企業、篤志家・ESG投資

提言先 国土交通省、地方自治体